



早産児の予後



我が国の年間出生数は第2次ベビーブームの昭和40年代に約210万人であったのをピークに、緩やかではありますが減少の一途を辿っています。平成30年の出生数は約92万1千人と、100万人を切る状態が続いており、少子化対策が昨今の重要課題となっています。しかし、出生数の減少に反して、出生体重2500g未満の低出生体重児の割合は、昭和50年代には約5%でしたが、平成17年頃からは約10%と倍増し横ばいの状態が続いています。これは初産年齢の上昇や不妊治療技術の上昇、合併症を持ったハイリスク妊婦管理における産科医療レベルの上昇により、低出生体重児として出生する新生児が増加したことが要因となっています。

在胎週数37週未満の早産児、低出生体重児として出生した赤ちゃんは全ての臓器が未熟であるため、状態が安定し体が十分に大きく成長するまでは、NICUと呼ばれる新生児集中治療室で点滴や人工呼吸管理などの集中治療を受けることになります。新生児医療レベルの上昇により在胎週数24、25週で出生した児の生存率は約15年前には80%前後でしたが、今では約95%まで改善がみられています。特に未熟性の強いと言われる在胎週数22週台で出生した場合も、約30%であった生存率は約50%まで上昇しており、半年前後の入院期間を経て家庭へ退院できるお子さんが増えてきました。ただし、強い未熟性を持って生まれてきた赤ちゃんは、軽度の知的発達遅滞や学習障害、注意欠陥多動などの発達障害やメタボリック症候群のリスクも高く、成長過程での確かな発育発達評価を行い、必要があれば適切なサポートを受けられるようにしておくことがその後の成長発達、健康にとって重要です。

発達評価は予定日から数えた修正月齢、修正年齢で行いますが、特に出生体重1500g未満で出生した場合、修正3ヶ月、7ヶ月、1歳半、3歳、5歳半、そして小学3年生での定期フォローアップ健診が推奨されています。幼児期以降は検診時に発達検査を行いますが、その結果を保護者の方へフィードバックすることにより、保育園、幼稚園や学校における過ごし方や発達を促すための方法についてのアドバイスが可能となります。当院での定期的なフォローアップ健診では、医師による発育発達評価や身体の診察とともに、周産期センター常勤臨床心理士2名による発達検査の結果を合わせて、保護者の方へ今後の子育てにとって助けとなる方向性を提示できるよう努めています。

NICUへ入院したその日から、赤ちゃんはもちろん、お母さんやお父さん達と関わってきた医師、看護師、保健師、そして臨床心理士であればこそそのきめ細やかな育児サポートができるよう、スタッフ一同、より良い方法を模索する毎日が続きます！

新生児科 診療部長 長谷川 恵子 



NICU・GCU交流会を開催します



今年も、当院NICU・GCUを退院されたお子さんと保護者の方を対象とした交流会を開催いたします。小さく産まれたり、病気と向きあったりしながら同じ思いを体験された方同士で集まって、あせらずゆっくりとお子さんの成長を見守っていきませんか？

📅 日時：令和元年8月18日（日） 午前10時30分～12時（受付10時～）

📍 場所：山口県立総合医療センター2階 大会議室

👤 対象：当院NICU・GCUを退院されたお子さんとご家族、のほほんKIDS会員のみなさん

📖 内容：絵本の読み聞かせ・親子であそぼう！ など

2018開催の様子



📷 新聞紙シャワー



📷 へびさん、おなかパンパンになったね🐍



📷 みんな いいお顔で、『はい！チーズ📷』

昨年度は、親子10組、30名の皆さんに参加していただきました。ふれあい遊びやサイコロトーク、なが〜い絵巻絵本やボール遊びに新聞紙遊びなどなど。私達スタッフも皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。

また、現在NICU・GCUに入院中の赤ちゃんやご家族、スタッフへ向けてあたたかいメッセージカードも書いていただきました。周産期センター4階のロビーへ掲示しています。



📷 メッセージカード 📷



センター稼働状況

分娩数	53件	緊急帝王切開	4件
母体搬送	3件	NICU稼働率	75.0%
新生児搬送	0件	MFICU稼働率	88.7%

(令和元年5月)

「お父さんありがとう♡」



編集後記



by. お飾り隊

東京オリンピック開幕まであと1年。身近に観戦チケットが当選された方はいらっしゃるでしょうか？さて、今年も当院のNICU・GCUを卒業された方を対象とした交流会を開催いたします。詳しくは、周産期センターHPをご覧ください。(C.K☆N.S☆Y.M☆K.H)



周産期センター
キャラクター
マミー&メイ